

医学部附属病院

長寿・健康人生推進センター

医師、歯科医師、研究者が一丸となって予防医療を実践

診療科DATA

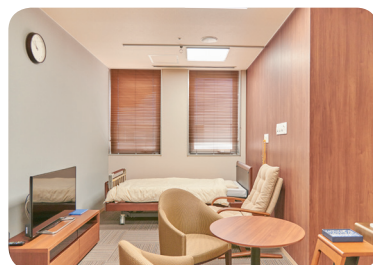
センター長	石川欽也(内科・神経内科医)
副センター長	荒木昭博(内科・消化器内科医)
歯科医師	原田直子
健診項目	健康管理ゲノム情報、歯科ドック、全身がん検診、脳ドック、肺がん検診、心臓ドック、食道・胃検診、大腸検診、泌尿器がん検診、運動器検診、女性専用がん検診、睡眠検診、視覚・聴覚検診



医学部附属病院に歯科の検査・治療チームが勤務するのは初めて。歯学部附属病院と連携して全人的治療の一環として歯科治療を行う。



石川センター長をはじめ、専任看護師や受付スタッフが常駐している。



リラックスして過ごせるように配慮した個室。

石川欽也センター長 ◎「本センターは、吉澤学長が長年実現を望んでこられた先進的な予防医療と健康長寿をご提供する施設です。ここから学内全体に予防の大切さが伝わっていけばと願っています」



2016年5月から診療をスタートした長寿・健康人生推進センターは、東京医科歯科大学で初めての検診センターである。CT、MRI、PETによる各種検診に加え、歯科ドック、睡眠健診など一般的な人間ドックにはない、健診プログラムを用意している。早期に疾患を発見し、早期に治療する予防医療を実践する国内でも先進的な機能を備えている。

センター最大の特長は、がんや生活習慣病などの多因子遺伝性疾患のリスクを推定する「健康管理ゲノム情報の提供」。疾患バイオリソース

センターと共同で開発した独自のプログラムで、採取した血液から遺伝子を調べ、罹患するリスクが高い疾患については、医師、看護師、栄養士、遺伝カウンセラーなどが一丸となって予防をサポートしていく。

神経内科医であり、神経疾患の遺伝的研究や遺伝子診断を専門とする石川欽也センター長は、ゲノム情報に基づいて病気の予防や健康管理ができる強みは大きいと話す。

「患者さんの希望に合わせて検査する対象疾患を一つひとつ選ぶことができます。健康寿命を延ばすということでは、早いうちにリスクを見

極め、健康なときから介入することが重要です」

基本プログラムのほか重点的に調べたい項目のみの個別プログラムを選べる。大腸カプセル内視鏡など、できるだけ負担の少ない最先端の検査方法を取り入れている。

「プログラムの作成では歯科やERを含む本学附属病院の各種診療科の協力があり、専門的な視点から検査プログラムが組まれています。疾患が発見されれば、そのまま各科で治療を受けることが可能です。本学の強みを最大限生かしたプログラムだと自負しています」

B